

第 3 学 年 体 育 科 学 習 指 導 案

3 年 2 組 指 導 者 原 田 勝

単 元 レッツ ラリー！ プレルボール！

1 本単元で子どもが創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

自己の適性等に応じて「支える」という視点で、運動との関わり方を考えること

2 本単元で、各教科等の本質（見方・考え方）の創出と受容、転移を行っている子どもの姿

本学級の子どもたちは、ゴール型ゲームの学習において、攻めや守りにおける自分の動き方を考えてきた。また、ベースボール型ゲームの学習において、仲間と関わりながらゲームを楽しむことのできる規則や作戦について考えてきた。このような子どもたちが、自己の適性等に応じたポジションを考えながらネット型ゲームの学習に取り組む。このことは、自己の適性等に応じて「支える」という視点で、運動と関わろうとすることにつながるであろう。

プレルボールは、ボールをプレル（打ち付ける）しながらつなぎ、相手コートにボールを返すというネット型ゲームである。自分たちのコートでボールをつなぐため、ポジションの選択が重要となる。子どもたちは、仲間と関わりながら、自己の適性等に応じたポジションを考えていく（創出）であろう。そのポジションをゲームの中で試し、振り返ることで、自己の適性等に応じて「支える」という視点で、プレルボールとの関わり方を考えるよさに気付くことができる（受容）と考える。そして、今後の体育科の学習においても、自己の適性等に応じて「支える」という視点で、運動との関わり方を考えることができるようになる（転移）であろう。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 一人ひとりのポジションをホワイトボード上に示すように促すことで、仲間と関わりながら、自己の適性等に応じたポジションを考えていくことができるようにする。【創】
- ボールをつなぐことができた理由を問うことで、自己の適性等に応じて「支える」という視点で、プレルボールとの関わり方を考えるよさに気付くことができるようにする。【受】
- 単元の最後に、自己の適性等に応じて「支える」という視点が次の単元でどのように使えそうなのかを問う。そうすることで、今後の体育科の学習において、自己の適性等に応じて「支える」という視点で、運動との関わり方を考えようとするようにする。【転】

3 本単元の目標

- ボールをプレルして仲間にパスしたり相手コートに返したりして、ラリーの続くゲームをすることができるようにする。
- 自己の適性等に応じて「支える」という視点で、運動と関わろうとすることができるようにする。

4 本単元における評価規準

| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
|--|---|---|
| ○プレルボールの行い方を理解している。 ○ボールをプレルして仲間にパスしたり相手コートに返したりしている。 | ○自己の適性等に応じたポジションを考えている。 ○ポジションについての考えの意図を仲間に伝えている。 | ○規則を守り、進んで運動しようとしている。 ○自己の適性等に応じて「支える」という視点で、運動との関わり方を考えようとしている。 |

5 指導計画（全6時間）

第1次 プレルボールの行い方を理解し、学習の見通しをもつ（2時間）

第2次 チームに合ったポジションを考えながら、ゲームをする（3時間）【本時2／3】

第3次 リーグ戦を行う（1時間）

6 本時案 【令和2年12月16日 9:20~10:05 体育館】

- (1) ねらい ボールをつなぐためのポジションについて話し合うことをとおして、自己の適性等に応じたポジションでゲームをすることができるようにする。
- (2) 学習過程 ※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子どもの意識

| 学習活動・学習内容 | 子どもの意識 | ○教師の支援 |
|--|---|--|
| 1 本時のめあてを確認し、ポジションを考える。 (10分) ・自己の適性等に応じたポジションを考えること | ・今日は、ボールをつなぐために、ポジションを考えてゲームをするのだね。 <u>どのようなポジションにすればよいのかな</u> B前を1人で後ろを2人にするとよいね。 ・前に立つのはだれかな。 Aだれでもよいのではないかな。 B前にはプレルの上手なCくんが立つとよいと思うよ。 ・さあ、試合だ。がんばるぞ。 | ○各チームでポジションを考える場を設定する。そうすることで、仲間と関わりながら、自己の適性等に目を向けていくことができるようにする。 【創】 |
| 2 ゲームをする。 (25分) ・考えたポジションについての気付き ・ポジションについての考えの意図 | Aあれ、Cくんがうまくプレルできないよ。 ・最初のゲームは負けてしまったよ。どうすればよかったのかな。 B Cくんがプレルしやすいパスをしたらよかったのではないかな。 <u>A だったら、ぼくはパスが得意だから後ろからCくんがプレルしやすいパスをしよう。</u> <u>B ぼくは背が高いから、大きくバウンドしたボールでもキャッチすることができるよ。</u> ・次の試合もがんばるぞ。 Cやった、うまくプレルできたよ。 ・Cくん、ナイスプレル! Aやった、ボールがうまくつながって、勝つことができたよ。うれしいな。 | ○一人ひとりのポジションをホワイトボード上に示すように促す。そうすることで、仲間と関わりながら、自己の適性等に応じたポジションを考えていくことができるようにする。 【創】 |
| 3 学習を振り返る。 (10分) ・自己の適性等に応じて「支える」という視点で、プレルボールとの関わり方を考えること | <u>どうしてボールが繋がったのかな。</u> Bそれは、Cくんがうまくプレルできるようにポジションを工夫したからだよ。 A最初にBくんがキャッチしてくれたから、ボールがうまくつながったね。 Cぼくは、Aくんのパスのおかげでプレルできたよ。 <u>A それぞれが得意なポジションでゲームをすると、うまくいくのだね。</u> | ○ボールをつなぐことができた理由を問う。そうすることで、自己の適性等に応じて「支える」という視点で、プレルボールとの関わり方を考えるよさに気付くことができるようにする。 【受】 |

(3) 板書計画

12/16 レッツ ラリー！ プレルボール！

どの様なポジションがよいだろうか？

ボールをつなげるためには

- ・しやすいパス→プレルに合わせる
- ・体の向き
- ・ポジション(立ち位置)

③は下取りが上手

三角形ポジション

②はパスが得意な人

①はキャッチするから大切！

ボールが繋がった理由

- ・3番目の人がプレルしやすいようにする
- ⇒3人のきまりかたが大切。
- ・それぞれが得意なポジションでゲームをするより。